

子宮内膜症について

テレビや新聞で子宮内膜症という言葉聞いたことがある方も多いと思います。子宮内膜症とは、子宮の内側にある「子宮内膜組織」が何らかの原因で子宮の内側以外の場所で発育・増殖する病気です。例えば卵巣に子宮内膜症ができると、卵巣が腫れて大きくなり卵巣チョコレート嚢腫（のうしゅ）になります。

子宮内膜症の症状は、よく知られている月経痛の他に、月経時以外の腰痛や下腹部痛、性交時の膣（ちつ）の奥の方の痛み、排便時の痛みなどがあります。また、不妊症の原因にもなります。

子宮内膜症の確実な診断は、腹腔（くう）鏡という内視鏡手術で病変を確認するしかありません。しかし、実際の日常診察では、症状や診察所見、超音波検査、MRIや血液検査などを組み合わせることで臨床的に子宮内膜症と診断しています。

子宮内膜症の治療には、大きく分けると薬による治療と手術による治療があります。どのような治療を行うかは、症状の程度や年齢だけでなく、今妊娠を希望しているかどうか、将来妊娠を希望するかどうかなどを総合して判断していきます。そのため子宮内膜症と診断されても治療法はその人によって違うため、他の人とは単純に比較はできませんので注意してください。

子宮内膜症が見つかるきっかけとして多い症状は、やはり月経痛です。1～2日目だけではなく月経期間中ずっと痛みが続く場合や、鎮痛剤が効かなくなってきたなどの症状がある方は、病院で相談することをお勧めします。

平成27年9月

徳川 吉弘